

本年度における肝炎ウイルスフォローアップに向けての取り組み

研究分担者：石上 雅敏 名古屋大学医学部附属病院 消化器内科

研究要旨：平成14年から老人保健事業、平成20年からは健康増進事業等で、自治体主導の（基本/特定）健診時に行われる肝炎ウイルス検診等の取り組みが行われるようになった。平成23年度より本研究班の分担研究者として、愛知県豊橋市保健所の協力を得て、地方自治体単位での効率的な肝炎ウイルス健診陽性者に対する効率的なフォローアップシステム構築を検討してきた。

今年度においては井上（貴）研究員を中心として愛知県全体での実情把握調査を行っており、今後の愛知県における新たな自治体ウイルス陽性者対策につき述べてみたい。

A. 研究目的

平成 14 年から老人保健事業、平成 20 年からは健康増進事業等で、自治体主導の（基本/特定）健診時に行われる肝炎ウイルス検診等の取り組みが行われるようになった。分担研究者は平成 23 年度より本研究班の分担研究者として、愛知県豊橋市保健所の協力を得て、地方自治体単位での効率的な肝炎ウイルス健診陽性者に対する効率的なフォローアップシステム構築を検討してきた。

平成25年度にアンケートを行った際にアンケート回収率が全体の39.3%(24/61)と低率であり、特に男性(28.0%)および40代以下の女性(25.0%)で低率であり、若年層における問題意識の低さが浮き彫りになっている。

今年度は井上（貴）研究員が中心となり、愛知県の各市町村、および管轄保健所にフォローアップの現状調査を行っている。その現状報告と、今後の愛知県におけるフォローアップの方策について述べてみる。

B. 研究方法

自治体においては分担研究者の担当である豊橋市を含めて、井上（貴）研究員が中心となり、愛知県におけるフォローアップの現況を調査している。そこへの協力の取り組みについて報告する。

C. 研究結果

昨年度までの調査で、平成27,28年度の陽性者12名のうち、6名の受検者、また健康対策課(特定保健法に基づく希望者健診の担当部署)では10名中9名で現状が把握できており、これら陽性者のうち、6名が治療に、また4名が無治療も経過観察中であり、現況のフォローアップシステムが豊橋市では有効に働いているということを経験してきた。平成29年度は井上(貴)研究員が中心となり、県内各管轄保健所にアンケートを送付、フォローアップの現況について調査を行った。豊橋市においては、320名の受検者のうち新たな感染者はなし、HCVについては315名の受検者のうち1名(0.3%)が陽性で、この陽性者にも新たにフォローアップ同意が得られていることがわかった。

愛知県は人口7,543,384人という大都市圏であり、かつ54の市町村、12の管轄保健所(政令指定市を除く)と非常に多く、県全体に有機的な対策を講じる目的にて県内にある四拠点病院での協力、全市町村での個々の対策策定を検討中である。

D. 考察

従来から人口37万人の中規模都市である豊橋市において調査を行っており、厚労省の

フォローアップシステムが開始されてからは比較的良好に運用されていることがわかっている。愛知県全体においては人口754万人と大規模であることから、中規模都市とは違った対策が必要になってくると考えられる。各市町村における温度差も見られ、効率的な対策をどのように展開するかにつき井上(貴)研究員を中心として行った愛知県全体のデータを基に対策を検討している所である。

3. その他
なし

E. 結論

肝炎ウイルス陽性者フォローアップの効率化には、受検、受診、受療の全てのステップを効率的に向上させることが重要であると考えられる。今回研究班全体として受検、受診、受療それぞれについて9つの課題が設定されたが、このうち特に受診のステップに効率的にどう関われるかを引き続き検討していく予定である。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. **発表論文**
なし

2. **学会発表**
なし

3. **その他**
啓発資材
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. **特許取得**
なし

2. **実用新案登録**
なし